

「介護の実態把握アンケート」に関する結果概要について（抜粋）

① 介護状況、介護対象者の有無について

介護経験のある従業員は、19%おりましたが、現在介護をしている従業員はおりませんでした。全体的には、介護に対する関心が低いことが伺えます。

② 今後の従業員の介護見込みについて

5年のうち介護の可能性があると答えた従業員は、75%と可能性が高いことがわかりましたが、介護することが本人であると、考えるものは8%と低い結果でした。介護することになりそうな人の回答にて親族と答えたものが50%でした。

③ 就業規則、規定内の介護関係制度に関する認知状況について

職場の介護制度の認知度について、制度があるかどうか知らないとの回答が67%と高く、周知すべきと改めて感じました。また、地域包括支援センターの認知度も同じく利用方法まで知っているものは24%と低いものでした。

④ 仕事と介護の両立に関する不安について

介護への不安を感じるものは少ないものを含めると62%でしたが、介護のことについて上司・同僚に相談できる雰囲気があるかの回答であると答えたものは54%。従業員の離職を防ぐためにも、社内に相談しやすい雰囲気作りが重要と考えます。

⑤ 介護が続いた場合の望ましい働き方及び社内制度について

介護が必要な時期は休業制度を利用して、自分が介護をしてその後仕事に復帰すると回答したものは、76%と高いものでしたが、その職場の介護制度の認知度が67%と高く、社内周知の必要性を高く感じました。

以上